



統括CM: 内田 史彦

(株)日立製作所にて研究開発グループCIO・技術統括センター長を経て、2014年より筑波大学国際産学連携本部審議役、2019年より現職。日立時代は、研究開発マネジメント、産学連携、情報セキュリティならびに株主向け広報を主導し、研究組織の再編などの構造改革を担当。庄山、川村、中西の歴代社長の政府関連業務の科学技術政策ブレインを務めた。工学博士。

統括CMからのメッセージ

筑波大学は、学際性、国際性そして教員・学生の高い起業マインドを特長とする大学です。当機構では、これらの強みを最大限に活用し、以下の3つの取組みにより、全学を対象とする大型民間資金を担い、持続的に拡大する革新的なオープンイノベーションに挑戦します。

- ① ニーズドリブ型共同研究による外部資金の拡大
- ② オープンイノベーションの国際展開
- ③ ベンチャーエコシステムによる研究成果の産業化

この実践に向けて、5つに分類した産業分野、国際分野、ベンチャー分野に、それぞれプロフェッショナル人材（CM）を配置するとともに、人文系との連携により利益相反・競争政策を含む先進的なコンプライアンス体制を構築します。

機構の取組概要

ニーズドリブ型共同研究による外部資金の拡大

企業共同研究ニースを最適教員群で実現

- 産業分野別教員データベースによる教員チーム構築
- 共同研究テーマ開拓“ワークショップ”

中長期の大型共同研究に向けた独自制度

- 開発研究センター：外部資金で運営するセンター
- 特別共同研究事業：企業担当者を教員として雇用

ベンチャーエコシステムの強化

大学発ベンチャーによる研究成果の産業化

【指標の変革】件数⇒資金調達額⇒時価総額⇒売上

大学発ベンチャーエコシステムの強化

- ① 共同研究、② 高附金、③ 新株予約権、④ 教育

オープンイノベーションの国際展開

国際産学連携・ベンチャー育成拠点の活用

狙い

海外企業との組織対組織連携
海外投資家からの資金調達

- ① ポストン：初～中級、② サンディエゴ：中～上級
- ③ シリコンバレー：中～上級、④ ニューヨーク：上級

コンプライアンス体制

専門チームとの連携による推進

- 安全保障輸出管理 学内利益相反・輸出管理部門
- 利益相反 学内利益相反・輸出管理部門
- 情報セキュリティ IPA（情報処理推進機構）
- 競争政策 公正取引委員会

主な取組み

- ・ 企業ニーズドリブで将来の社会課題を共有し、アンダーワンルーフ構想のもと企業と大学が一体となって学際的なチームを組み、大型の共同研究を推進する。
- ・ 海外拠点を有効に活用し、海外ライセンス活動・資金調達を活性化させる。
- ・ 大学発ベンチャーの立上げを大学が積極的に後押し、大学発ベンチャーとの共同研究を拡充、ストックオプション制度を有効活用して資金の好循環を達成する。

研究分野例

ライフサイエンス分野

日本初の1000ドルゲノム拠点



バイオテクノロジー分野

琥珀に着目

1. 生理機能に関する効果検証
2. 機能性食品⇒上市進行中



農業分野

ゲノム編集トマトの実用化、国内初のゲノム編集トマト上市に向けた活動



エネルギー分野



藻類によるバームオイル精製廃液の利用・浄化と高付加価値成分生産事業を実施

